

聖書日課 『からし種』 2021.1.24-1.31

<p>1月24日 (日) 箴言 15章</p>	<p>「目に光を与えるものは心をも喜ばせ／良い知らせは骨を潤す。命を与える懲らしめに聞き従う耳は／知恵ある人の中に宿る」(30～31節)。主の知恵は、旧約だけでなく、キリストを通してわたしたちにも伝えられている。「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい」(マタイ6・22)のキリストの言葉にも繋がっている。</p>
<p>25日 (月) 箴言 16章</p>	<p>「あなたの業を主にゆだねれば／計らうことは固く立つ」(3節)、「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる」(9節)。私たちの歩みには主が必ず伴っていて下さる。主の計画は事前に知ることはできないけれど、主がその道を必ず備えて下さることを信じ、期待して歩むとき、私たちの歩みを主が固く確かなものとしてくださる。</p>
<p>26日 (火) 箴言 17章</p>	<p>「喜びを抱く心はからだを養うが／霊が沈みこんでいると骨まで枯れる」(22節)、「分別のある人は顔を知恵に向け／愚か者は目を地の果てに向ける」(24節)。主から離れて歩くとき、心は疲れ、生きる力もなくなり、顔は下を向く。しかし、主が下さる喜びは、私たちの心と体を養い、私たちの顔を主に向けさせて下さることに期待して、歩みたい。</p>
<p>27日 (水) 箴言 18章</p>	<p>「主の御名は力の塔。神に従う人はそこに走り寄り、高く上げられる」(10節)。私たちを守ってくれるものは何だろうか。世の力(財力、権力)は目に見える形で私たちを守ってくれるが、主が下さる力は、私たちが疲れているときに憩わせ力づけてくれるもの。本当に大切なものは、主が必ず私たちに備えて下さる。その一つが主の知恵なのだろう。</p>

聖書日課 『からし種』 2021.1.24-1.31

<p>28日 (木)</p> <p>箴言 19章</p>	<p>「勧めに聞き従い、諭しを受け入れよ。将来、知恵を得ることのできるように。人の心には多くの計らいがある。主の御旨のみが実現する」(20～21節)。私たちは主に全てを委ねて歩みたいと願うが、主の御旨がわからないからこそ祈り求める。ときにはその道と外れて歩むことがあっても、主の計画のみが実現するために主の言葉に戻れるように歩みたい。</p>
<p>29日 (金)</p> <p>箴言 20章</p>	<p>「聞く耳、見る目、主がこの両方を造られた」(12節)、「主の灯(ともしび)は人間の吸い込む息。腹の隅々まで探る」(27節)。主がくださる灯は、私たちが必要とする空気のように私たちの中に吹き入れられ、私たちの内側を整えてくださる。主が灯される光に気が付くように、主の言葉を受け取ることができるように主は私たちを造ってくださっている。</p>
<p>30日 (土)</p> <p>箴言 21章</p>	<p>「知恵ある人の住まいには望ましい宝と香油がある…恵みと慈しみを追い求める人は／命と恵みと名誉を得る」(20～21節)。主の道は、人を生かす水脈のように流れている。その道を進むために主の知恵を祈り求めることを手は喜んでくださる。主の恵みと慈しみを生きる人は主が命と恵みと主とともに歩む豊かなときを与えてくださるのだろう。</p>
<p>31日 (日)</p> <p>箴言 22章</p>	<p>「あなたが主に信頼する者となるように／今日、あなたに教えを与えよう」(19節)。「主に信頼する者」は「主により頼む者」の意味。「味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は」(詩編 34・9)とあるように、自分一人では心配で、主に身を寄せる人。それは「弱い者」の歩みに見えるけれど、主の恵み深さを味わい知る幸いな道。</p>